

知的障害者の入所施設とグループホーム/ケアホームにおける客観的生活の質の比較 —職員へのアンケート調査に依拠して—

○ 京都女子大学 鈴木 良 (5724)

キーワード：入所施設、グループホーム/ケアホーム、客観的生活の質

1. 研究目的

知的障害者(以下、本人と略記)の脱施設化/地域移行政策の成果の評価研究ではノーマライゼーションをいかに解釈するのか、いかなる規範的アプローチを採用すべきかが問われる。筆者は異化・平等化アプローチに基づき、社会の中でノーマル/人並みと捉える生活条件が全ての人々に十全に且つ無条件に権利として提供されなければならないと考える。

従来の評価研究のように地域生活が入所施設よりもいかなる成果をもたらされるのか/いかにコストが削減されるのかを証明する視座を採用しない。異化・平等化アプローチでは、生活の質が悪化する領域があっても入所施設を肯定する結論を出すのではなく、本人がそれをどのように捉えているのか/地域生活においてその領域を改善するためにはいかなる社会的方策が必要なのかを検討することが重要になる。また、コストが生じても地域生活を可能にする機会集合を保障することが社会の責務と考える。

問われるべきことは、地域で生活しても入所施設と同様の構造的課題が継続していないかということである。本研究では、このような視座から入所施設(以下、施設と略記)とグループホーム・ケアホーム(GH・CHと略記)の生活の質の実態を比較する。

2. 研究の視点および方法

研究の視点は1)異化・平等化アプローチに基づき、2)客観的評価と主観的評価を共に重視した。研究方法は1)職員が本人の実態を記入するアンケート(客観的生活の質)、2)本人への面接を通して記入するアンケート及び質的調査法(主観的生活の質)によってデータを収集した。本大会では1)のみを発表する。

本調査はA都道府県A・B市の施設及びGH/CHを運営する全事業所を対象とした。調査期間は2012年9月1日から10月13日までの間に、最終的に5施設及び49GH・CHから277部が回収(有効回収率82%)された(施設79名、GH/CH198名分)。尺度はGENCAT scale(Gomez, et al.2011)(幸福感、人間関係、物質的豊かさ、成長、健康、自己決定、社会参加、権利の領域)及び客観的自己決定尺度を使用した。分析方法は主に多元配置分散共分散分析を実施した。

3. 倫理的配慮

調査方法(参与観察・面接調査の方法や面接対象者の選定等)・結果の発表方法(学会/学会誌/調査報告書等による報告)は、調査対象となった全事業所を直接訪問し、事業所代表者に事前に説明した。具体的には、調査対象施設については場所や個人が特定されないように統計処理を行うこと、学会や学会誌などの学術的な目的以外に公表しないことを口頭及び文書にて説明した上で、十分な理解と承諾を得てから実施した。

4. 研究結果

第一に、居住場所(施設・GH/CH間)で有意に差異のあった1)客観的生活の質尺度の成長得点と2)客観的自己決定尺度の自己決定得点を検証した。各従属変数に有意に関連のある説明変数(居住場所、障害程度区分、療育手帳、給与)を投入し分析した。その結果、有意な主効果をもつ変数は1)は障害程度区分(F値5.87、 $P<0.001$)であり(調整済み R^2 乗0.26)、2)は居住場所(F値4.68、 $P<0.05$)、障害程度区分(F値3.10、 $P<0.05$)、療育手帳(F値6.10、 $P<0.05$)、給与(F値6.44、 $P<0.05$)であった(調整済み R^2 乗0.41)。なお客観的生活の質尺度のうち幸福感得点、人間関係得点、成長得点、自己決定得点、社会参加得点は物質的豊かさ得点、身体得点、権利得点に比較すると施設・GH/CHで平均値が低かった。

第二に、個々の項目で検討すると、GH/CHでは施設よりも生活への満足感、日常生活に関わる決定(就寝や起床時間など)、支援計画への参加、社会資源の利用機会や外出頻度などが向上することが分かった。しかし施設と同様に、金銭・共同入居者・性の決定機会が制約され入居者同士の話し合の機会が少なく、プライバシーの保障がなされていない割合が高く、事業所外に友人関係のある割合や地域活動・本人活動への参加割合が少なかった。

5. 考察

第一に、GH/CHでは施設よりも総合的に自己決定の機会が向上するが、生活の質の各領域全体でみた場合に、施設と同様に幸福感、成長、人間関係、自己決定、社会参加の機会は低い水準であることが分かった。

第二に、GH/CHでは施設よりも生活満足感、日常生活に関わる決定や外出機会などは向上するが、施設と同様に自らの人生にとっての重大な決定に参加・参画する機会が制約され、プライバシーに関わる問題があり、社会活動への参加機会が乏しく社会的ネットワークの広がりのないことが分かった。

参考文献)

Gomez, L. E., Verdugo, M. A., Arias, B. and Arias V. (2011) A Comparison of Alternative Models of Individual Quality of Life for Social Services Recipients, Social Indicators Research, 101(1), 109-126.